第 27 回生物医学図書館員研究会の報告

青 木 仕*

順天堂大学図書館

はじめに、第 27 回生物医学図書館員研究会の報告をする前に、この生物医学図書館員研究会の概要について簡単に述べたいと思います。

生物医学図書館員研究会は、昭和 57 年に関東地区の医学、薬学、病院に勤務するライブラリアンの有志がもっと勉強がしたい、同じ仕事につく者同士として横のつながりとコミュニケーションを図りたい、といった趣旨によって発足し、今年で 17 年目を迎えます。この研究会の目的は、第一に職業を同じにする仲間との情報交換と懇親の場を提供することにあります。発足当初からアカデミックな講演や発表の後には、必ず懇親の場を設けるようにプログラムされてきました。発足当初は、年に 2 回程度開催されておりましたが、現在は毎年秋に研究会を開催しております。そして、一昨年の研究会で 27 回を数えました。会報は Learning from each other FORUM というニューズレターによって広報を行っています。会場は、東京大学、東京医科歯科大学、順天堂大学など都内の医学図書館が利用され毎回 40～50 名の参加者があります。発足当初は、会員制であり会員の発表が中心の研究会でありましたが、最近では図書館情報学分野でのトピックス的なテーマをそのつど取り上げ、その主題に詳しいオーソリティーをお招きし講演形式によるプログラムが企画され

継続されております。

ここに最近開催された第 25～27 回の研究会の日時や演題、参加者数などの概要をまとめてみました。

第 25 回研究会

開催日時：平成 6 年 11 月 26 日 14：30～17：00

会 場：東京大学医学図書館 3 階大集会室

テ ー マ「鏡としての文献情報；Bibliometrics 再訪」

- 1) 鏡としての文献情報；Bibliometrics の役割
山崎茂明（東京慈恵会医科大学医学情報センター）
- 2) 中国の環境科学領域を対象にした計量文献学的分析
曹 錦丹（白求恩医科大学）
- 3) 方法としての Bibliometrics；教育展望
緑川信之（図書館情報大学）
- 4) 科学史と文献情報
島尾永康（元同志社大学）
「参加者数：39 名」

第 26 回研究会

開催日時：平成 8 年 12 月 21 日 15：00～17：00

会 場：東京医科歯科大学 1 号館 9 階特別講堂

テ ー マ「学術情報をめぐる最新のトピックス」

- 1) 科学情報の流れによどみはないか？；論文発表の倫理をめぐって

*Manabu AOKI:〒113-8421 東京都文京区本郷 2-2-26.

(1998 年 3 月 30 日 受理)

山崎茂明（東京慈恵会医科大学情報センター）

- 2) エルゼビア社による新しいオンラインサービス
ScienceDirect の概要

深田良治（エルゼビアサイエンスジャパン）

- 3) ユージン・ガーフィールドと ISI

窪田輝蔵（クボタアソシエイツインターナショナル）

「参加者数：56 名」

第 27 回研究会

開催日時：平成 9 年 12 月 23 日 14：00～16：30

会 場：順天堂大学 9 号館 2 階 8 番教室

テ ー マ「電子メディアの現状と課題」

- 1) 電子メディアの現状と今後

加藤信哉（東京大学附属図書館）

- 2) 医学分野の電子メディアの作成・提供のプロセス

長塚 隆（KMK デジテックス）

- 3) 東京工業大学附属図書館における電子ジャーナルの利用と問題点

尾城孝一（東京工業大学附属図書館）

- 4) 電子メディアの可能性；情報発信機能

杉本満信（医療研修推進財団）

「参加者数：89 名」

さて、昨年（1997）の 12 月に行われた第 27 回の研究会では、電子メディアの現状と課題というテーマで

4 名の講師を招き講演していただきました。会場は、100 名が収容できる教室でしたが、年度末にもかかわらず 89 名もの参加者があり満席に近い盛況な研究会となりました。会は参加者の簡単な自己紹介からはじまり、4 名の講師の発表へと続きました。

はじめに、電子メディアについての概要を「電子メディアの現状と今後」というテーマで東京大学の総合図書館でシステム管理を担当されている加藤信哉氏に発表していただきました。この発表は、今日までの電子メディアの進展と現状をレビューした第一番目の発表にふさわしい内容でした。次に、「電子メディアの作成・提供の過程」というテーマで元丸善に在職され現在 KMK デジテックス社の長塚隆氏が、発表されました。電子メディアの定義と範囲、出版と流通、収集、蓄積と保存、利用と広範囲に実践の企業社会の現場から報告していただきました。

三番目は、ライブラリアンである尾城孝一氏に電子メディアの利用が各種の図書館のなかで、最も進んでいると思われる国立大学図書館の事例として「東京工業大学附属図書館における電子ジャーナルの利用と問題点」というテーマで発表していただきました。

最後は、現在病院図書室を中心に Web 上で医療情報電子検索システムのサービスを展開中の医療研修推進財団のシステム開発を担当されている杉本満信氏に「電子メディアの可能性：情報発信機能」というテーマで同財団のサービスの実情を報告していただきました。

引き続き質疑応答に入り、会場からは電子ジャーナルを契約し、何年後実際に我々の身近なものになり運用されるようになるのだろうか。その時、その運用が我々の日常業務となった場合、どのようなサポートが我々に要求されるのか。また、電子ジャーナルと CD-ROM をも含んだ電子メディアという広い概念からでは、この時間ではまとも

りきれない内容だ、などの意見があげられました。次回の研究会では、テーマをオンライン・ジャーナルだけにしぼるとか、ネットワーク、コンソーシアムやCD-ROMの劣化の問題など質問として取り上げられた一つ一つが個別のテーマになる内容との指摘もありました。

講演者の発表は、4名どなたもOHPと配布資料が用意されわかりやすい内容の講演でした。

現在、アメリカの研究者が電子ジャーナルに期待する点として、1. 関連情報や注釈・参考文献間のリンク。2. Concept Search (キーワードサーチに止まらず、例えば蛋白質構造式の類似によるサーチなど)。3. データ・図表のダイナミックな活用と表示。4. インターフェースの統一。5. 価格体系のフレキシビリティ (個人と機関、雑誌単位と論文単位) 等をあげています。次に、電子ジャーナルの問題点としては、研究者からは、

Peer Review (論文審査)、論文のクオリティーがあげられています。図書館側からは、価格面、管理と運用面から、購読料をどの予算項目にあてるのか、従量料金制か年間固定料金制か、ドキュメント・デリバリーとILLとの使い分け、Site Licenseを得た情報のデリバリー面での管理、利用者教育、Archive (保存)、パスワードの管理等。電子ジャーナルには、クリアしなければならない問題が現状では数多く見いだせます。しかし、CD-ROMの普及と同様に利用者にその有用性が認知された時、その普及は一気に加速されるものと思われます。今回の研究会は、電子メディアの入門講座といった内容でした。

研究会の後は、会場の御茶の水駅近くのレストランに移し懇親の場を持ち散会となりました。この研究会での発表原稿は、この45巻2号の医学図書館誌上に掲載されております。